

私たちの暮らしには、身近なところに事故や危害にあう危険性が潜んでいます。毎日口にする「食品」、日常的に使用する「製品」、通勤・通学や様々な活動で利用する「施設」と、本来は消費者を幸せにするはずのものが、場合により、その生命・身体の安全を脅かすものになる可能性があります。

食品や製品に関しては、商品を購入する段階で、事前に商品テストなどの情報を確認したり、表示やマークを確認して、できるだけ安全な商品を選ぶことが大切です。また、企業からリコールや製品回収情報が出ている可能性もあるので、新聞やインターネットで確認することも大切です。

施設に関しては、どの施設にはどのような危険があるか、過去の事故事例なども参考にしながら認識を深め、施設利用時には危険な箇所に近づかないようにすること、適切な使用をすることが必要です。

万が一、事故が起こった時には、事故の現場を記録して証拠を残し、製造業者や販売店、施設管理者らに連絡をしましょう。

I 安全

1st Lesson
Safety



1 食品の安全

BSE問題、遺伝子組み換え食品、残留農薬、食中毒事件など、消費者の食の安全が脅かされる事件が多く発生しています。私たちが安全・安心な食生活を送るためには、どうしたらよいのでしょうか？

まず、消費者は食に対する関心を高め、食品を選ぶための知識を得ることが大切です。特に生産現場と消費者が離れている現代では、「表示」が重要な情報源になります。例えば、生鮮食品には原産地、加工食品には原材料の表示、消費期限※1もしくは賞味期限※2、さらにアレルギー物質を含む場合はその情報も書かれています。

また、食料自給率が40%の我が国では、地産地消で生産者の顔が見える食品を選択したり、消費者自身が自分の「五感」をみがき、本物の味が分かる味覚を持つことも、安全性を高めることにつながります。

万一、事故が発生した時には、表示が手がかりになるので保存し、保健所等に相談・情報提供しましょう。

※1 消費期限：品質が劣化しやすいもの（おおむね5日以内）

※2 賞味期限：比較的劣化しにくいもの（おおむね5日を超える）



2 製品の安全

家庭用シュレッダーによる幼児の手指切断事故、ガス瞬間湯沸器による一酸化炭素中毒死傷事故など、私たちの身の回りの製品で痛ましい事故が次々と起きています。このような事故の被害を防ぐには、どうしたらよいのでしょうか？

消費者は日頃から製品の「注意」「警告」の表示を確認し、正しく使用することが大切です。安全性の基準に適合した製品にはSGマークが付けられているので、上手に商品を選びましょう。

購入後は適切な使用を心がけます。長持ちしているものは品質が経年劣化しているため、点検・修理して事故を予防しましょう。

万一、製品事故が発生した時、製造事業者や輸入業者は国に事故報告をすることが義務づけられています。* 国は、このような事故情報を収集し、広く消費者に公表して、再発防止を図っています。

また、国民生活センターなどの機関では、商品テストを行い、結果を広く公表しています。このような情報を活用し、安全なものを選択するようにしましょう。

* 消費生活用製品安全法

